建設経済常任委員会

平成30年9月19日（水曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 9号 平成30年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について
- 議案第12号 旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第13号 東総広域水道企業団規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について

出席委員（6名）

委員長	宮内 保	副委員長	林 晴道
委員	佐久間 茂樹	委員	平野 忠作
委員	高木 寛	委員	平山 清海

欠席委員（なし）

委員外出席者（1名）

議長 島田 和雄

説明のため出席した者（15名）

副市長	加瀬 正彦	商工観光課長	小林 敦巳
農水産課長	宮内 敏之	建設課長	加瀬 喜弘
都市整備課長	鵜之沢 隆	下水道課長	高野 和彦
水道課長	加瀬 宏之	農業委員会 事務局長	赤谷 浩巳
その他担当 職員	8名		

事務局職員出席者

事務局長

大 矢 淳

事務局次長

池 田 勝 紀

副主幹

黒 柳 雅 弘

開会 午前10時 0分

○委員長（宮内 保） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

きょうは最低気温が 20 度を切ったということで、非常に秋らしくなってきたのかなど。きのうは銚子港にサンマが揚がったということで、非常にいい季節になったのかなということでございます。そのような中でありますので、今後ともよろしく願いいたします。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了解をお願いします。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了解をお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名、委員会は成立しました。

それでは、建設経済常任委員会を開会いたします。

本日、島田議長にご出席をいただいておりますので、ご挨拶をお願いいたします。よろしくをお願いします。

○議長（島田和雄） 皆さん、おはようございます。

委員の皆さん大変ご苦労さまでございます。

本日は、一般会計補正予算を含む3議案について審査をしていただくことになっております。どうぞ慎重なるご審議をお願いいたしまして、簡単ではございますけれども、挨拶に代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

○委員長（宮内 保） ありがとうございます。

議案等説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、加瀬副市長よりご挨拶をお願いいたします。

○副市長（加瀬正彦） おはようございます。

本日は、建設経済常任委員会の開催、大変ご苦労さまでございます。

本日の委員会に審議をお願いいたします議案でございますが、全部で3議案でございます。まず、予算関係が1議案でございます。議案第9号、平成30年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち建設経済常任委員会の所管事項となります。

次に、条例関係が1議案でございます。議案第12号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

次に、規約の制定に関する協議についてが1議案で、議案第13号、東総広域水道企業団規約の一部を改正する規約の制定に関する協議についてでございます。

執行部といたしましては、委員の皆様方からのご質問に対しまして、簡潔明瞭に答弁いたしますよう努めてまいります。何とぞ全議案可決くださいますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが、ご挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

○委員長（宮内 保） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（宮内 保） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る9月6日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第9号、平成30年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第12号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第13号、東総広域水道企業団規約の一部を改正する規約の制定に関する協議についての3議案であります。

初めに、議案第9号中の所管事項について補足説明がありましたらお願いします。

都市整備課長。

○都市整備課長（鵜之沢 隆） 議案第9号、平成30年度旭市一般会計補正予算の議決についての都市整備課所管の補足説明を申し上げます。

補正予算書の10ページをご覧ください。

歳出になります。中段ぐらいになります。

8款4項1目住宅管理費、説明欄1、市営住宅改修事業工事請負費の解体撤去工事498万8,000円は、都市整備課所管の神西住宅と双葉団地の解体撤去に要する費用です。

市営住宅のうち老朽化の著しいものについては、順次、用途廃止の上、解体していく予定でありまして、本年度に入り当該住宅の一部が空き家となったことから、神西住宅4戸と双葉団地1戸の解体撤去費用を補正するものです。

以上で、議案第9号、平成30年度旭市一般会計補正予算の議決について、都市整備課所管の補足説明を終わります。

○委員長（宮内 保） 担当課の説明は終わりました。

議案第9号について質疑がありましたらお願いいたします。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 所管の問題もあるんですけども、入りのほうだからいいんだろうと思うんですけども、というのは、財産収入、これは道の駅の件なんで、これは質問してもいいですか、委員長。所管外。

○委員長（宮内 保） 外。

○委員（佐久間茂樹） そうですか。総務の所管なんですか。お答えはいいです。

ただ、ちょっと気になるのは、利子及び配当金 61 万 5,000 円というのは、多分、平成 29 年度の決算、副市長、ちょっと教えていただければありがたいんですけども、これ 61 万 5,000 円というのは、平成 29 年度の、帳簿上は平成 29 年度の収入ですよ。それで、多分このときかなり利益が出ていて、法人市民税を受け取っていると思うんですけども。その金額が幾らぐらいになるのか。

それから、これは建設経済ですから、そういう点では今これ千葉県食肉公社って、事業計画書の報告書をお願いしましたけれども、決算書で見ると 544 ページに、食肉公社に、ちょっと話がそれちゃうかもしれないんですけども、関連なんで、ベイエフエム、園芸プラスチック、うなかみの大地、季楽里あさひということで、有価証券を持っているわけです。株を持っているわけですよ。これが平成 29 年度で、道の駅の季楽里あさひからは 61 万 5,000 円配当がありましたと。この二、四、五、今これ事業計画書をもらったから思ったんですけども、ほかの配当というのも、多分 3 月決算であれば 5 月くらいに出るから、当然補正には入ってきていいとは思うんですけども、その辺のところを分かったら教えてもらいたいなど。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員、一応、所管の農水産課のほうから食肉公社に関しては報告だけということで、質問はなしということで一応聞いているんですけども。

○委員（佐久間茂樹） じゃ、別に、私はそう思った、どうなったのかなと思っただけの話で、お答えいただければ別にそれで構いません。だから、今これ絞って。株式の配当が季楽里が 61 万 5,000 円ありますよ。関連で上の 600 万円という数字もいろいろ議案質疑、一般質問でも出ているから、ちょっとこの辺で確認できればありがたいと思うんですけども。これは所管外ですかね。

○委員長（宮内 保） それでは、佐久間委員の質疑に対し答弁を求めます。

副市長。

○副市長（加瀬正彦） 季楽里あさひの関係なんですけれども、61万5,000円は市が615株持っておりますものの1株当たり1,000円の配当ということになります。これについては、株主総会の中で利益の処分を決定したということなので、平成30年度の中で正式に金額が示されたということになって、今回補正しているということになります。

法人市民税のお話もありましたけれども、今手元に資料がございませんので、幾ら払ったかはちょっと今分かりません。

それと、出資による権利、確かにいろいろ持っていますけれども、食肉公社については株式配当していません。というぐらいは分かります。それ以外のところも、ほぼ配当がないという状況でございます。

ベイエフエムはたしかあったと思うんですけれども、今細かい金額は把握しておりません。

それと、うなかみの大地が2万円という配当があったということでございます。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 多分61万5,000円の配当金より、どうもあれ税金を多分千万単位で納めると思うんだよね。これは前からずっと企画政策課長にも聞いているんだけど、その税の納税した金額の内訳を教えてくださいと言っているんだけど、なかなか教えてくれないんだよね。ただ、これ決算だから、歳入のほうで法人市民税が入っているはずなんだよね。当初予算に入っているのか、それとも入っていないのか。それをちょっと確認したい。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員の質疑に対し答弁を求めます。

それでは、暫時休憩します。

休憩 午前10時11分

再開 午前10時12分

○委員長（宮内 保） それでは、再開します。

ただいま佐久間委員の質疑に対し、所管事項以外になりますが、でも答弁できますか。

○副市長（加瀬正彦） 資料がないので、細かい数字はちょっと。また違う数字を言うてしまう……。

（発言する人あり）

○委員長（宮内 保） 副市長。

○副市長（加瀬正彦） 当然、法人市民税ですから、それは予算の中である程度組んであるものであります。

例えば、予算については、前年度の収入等を見込んで今年度どのくらいの伸びがあるのかとか、そういった基礎の中での数値になりますので、その法人から幾らということではありませんけれども、全体の中での予算の中には組み込まれているということになるかと思えます。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） ちょっと疑問に思ったのは、要するに株式配当だけ補正して、法人市民税は補正しないのかということなのよ。同じタイミングでしょう、だって。歳入の法人市民税を当初予算が去年の実績のもとに暫定という話なんですけれども、そしたらこれ決算が終わったら、ちゃんと補正すべきじゃないのかなと、私はそう思うんだよね。それだけです。いいです。

○委員長（宮内 保） ほかに質疑ありますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（宮内 保） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第12号について補足説明がありましたらお願いします。

都市整備課長。

○都市整備課長（鵜之沢 隆） 議案第12号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定については、本会議において説明したほかに補足して説明することはありません。よろしく願いいたします。

○委員長（宮内 保） 担当課の説明は終わりました。

議案第12号について質疑がありましたらお願いします。

平野委員。

○委員（平野忠作） それでは、12号に対しまして何点かお聞きしたいと思います。

旭市営住宅ですね。今回、神西が5戸でいいですよ、取り壊しということで、このいろいろ資料を見てみますと、神西のほうは昭和40年代前半ですか、造ったということで、既に五十数年経過で、飯岡の双葉団地は昭和36年、これも60年近いあれなんですよ。たっています。老朽化が甚だしいのは間違いないんです。

ここでちょっとお聞きしたいのは、家賃は双葉と神西は同等の家賃ですか。分かればお幾

らぐらいだと。

そして、神西のほうですね。取り壊して、今から数年前はたしか取り壊して、一部は分譲というか、民間業者に払い下げたということです。今回1戸残って、それをどのような対応で持っていくのか。

それともう一つは、一番大事なのは、私は低家賃で入れるということは、生活の困窮が第一と。それと、家族がその中で独居、ひとり暮らしですね。両方に対しましてどのくらいいるのかと、あるいは夫婦のみか、それとも子どもが何人いるかと、その辺が分かれば両方の団地の家族構成が分かるんですよね。そういう人も何年かくらいはそのまま、ある程度修理しながら持っていてもらいたいなというのが分かりますもので、分かる範囲内で結構ですので、その辺をちょっとお聞かせください。

○委員長（宮内 保） 平野委員の質疑に対し答弁を求めます。

都市整備課長。

○都市整備課長（鶴之沢 隆） ただいまのご質問にお答えさせていただきます。

それぞれ神西と双葉の家賃はというご質問がありました。

家賃につきましては、入居する方の収入等によって変わってまいりますけれども、神西住宅がだいたい月額で2,500円から4,500円、それと双葉団地は月額1,800円から4,600円ということで今なっております。

それと次のご質問で、今後どのようにしていくのかと、どのように考えているのかというご質問でした。

神西住宅につきましては、用途廃止後2棟11戸を取り壊す予定となっております。これによりまして、南北、道路で分けられております3列ぐらい区域があるんですけれども、そのうちの東側の2列分ぐらいがきれいになります。ある程度まとまった面積、だいたい4,300平米程度になるんですけれども、それが空き地となります。

その一方で、一番西側の区域2,700平米ぐらい残るんですが、ここには建物が1棟、長屋形式で6戸で1棟だけ残る格好になりますので、この区域を含めて全体がきれいになってから売却するかどうか、あるいは今回ある程度きれいになった東側の2列分だけ4,300平米程度を売却するのかということにつきまして、土地の利用価値、これを十分考えさせていただいて、売却の区域割とか、時期については庁内の関係課を交えて検討していきたいというふうに考えております。

双葉団地のほうです。双葉団地につきましては、まだ今回の用途廃止が終わって解体して

も、40 戸以上まだ入居者がいる状況ですので、今後は同様の用途廃止によってある程度まとまった面積の空き地が確保できるようになった段階で、売却等を含めた有効利用についてはまた検討していきたいというふうに思います。

それと、現在の入居者の状況ですね。家族構成とか、独居なのかとか、そういう概略ですけども、神西住宅のほうは、今残っている6戸1棟の中で、4戸は現在政策空き家として空き家になっております。実際入っていらっしゃるの2戸で、1戸は80代の女性、それからもう1戸は70代の女性と40代の息子という形になっております。

双葉団地のほうですけども、現在管理しているのは43戸で、政策空き家がそのうち2戸ございますから41戸に人が入っているという状況です。41戸のうち独居は19戸、それで年齢はだいたい50代から80歳代という幅になっております。それと、夫婦で入っていらっしゃる方が6戸、これは年齢は主に70歳代という状況です。その他、残りの家族による入居が16戸というふうな形で双葉団地のほうは状況になっております。

以上です。

○委員長（宮内 保） 平野委員。

○委員（平野忠作） 今、課長のほうからご説明ありました。

やはりこれは高齢化、それでその皆さんが働けなくて、収入がないから安いところにいるというのが浮き彫りになっているのかなということで、旭で考えた場合は、どういうわけか知らないけれども、アパート、マンションばかりばんばんいまだにどのくらい入ったか分からないけれども、新築が毎年のように建っているというのが現状なわけなんですけれども、このように生活弱者と申し上げませんが、こういう皆さんのためにも、やはりある程度の市営住宅は確保してあげなくてはいけないのかなと、このように思っています。

だいたいよく説明を受けたので、この件に関してはよく分かりました。ありがとうございました。

○委員長（宮内 保） 答弁は。

○委員（平野忠作） 全て出ているからよろしいと思いますよ。ありがとう。

○委員長（宮内 保） ほかに質疑はありませんか。

高木委員。

○委員（高木 寛） それでは、私のほうから条例直接ということじゃないんですけども、

11 から6戸に改正されると。それで、先ほどいろいろ説明ありまして、老朽化して取り壊

しと。

私の聞きたいのは、今6が残っていると。これが同じように老朽化は当然していると思うので、それがもし地震で危険な状態になるとかということであれば、市の住宅として補償とか、そういうのは当然必要だと思うんですけども、その辺の措置なんていうのは、直接はどういうふうになるんでしょうか。

同様に 43 残る双葉もそのように老朽化していると思うんで、そういう災害のときの対応といたしますか、住居者本人の責任になるのか、市営住宅なので市の責任になるのか、その辺をお聞きしたいと思います。

○委員長（宮内 保） 高木委員の質疑に対し答弁を求めます。

都市整備課長。

○都市整備課長（鵜之沢 隆） 現在残っているのはだいぶ老朽化しているけれども、そういうので事故、災害とかあったときの補償というお話ですけども、特に補償につきましては市のほうで、建物について老朽化しているというのは、入居者の方も十分ご存知だと思います。状況によるとは思うんですけども、基本的には災害によるものをどの程度まで市で補償できるのかというのは、現状その状況が予想つきませんので、お答えは難しいのかなというふうに思います。

災害時ですけども、例えば台風とかで、だいぶ老朽化しているので壊れるというようなことがあるのかなというのは、実際あると思います。そういう場合には、老朽化している部分で壊れるのが確認できれば、そういうのは市のほうで危険がないように補修はかけていきたいと。事前の補修なんかも考えてはおりますので、そういうことでご理解いただきたいと思います。

○委員長（宮内 保） ほかに質疑ありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（宮内 保） 特にないようですので、議案第 12 号の質疑を終わります。

続きまして、議案第 13 号について補足説明がありましたらお願いします。

水道課長。

○水道課長（加瀬宏之） 議案第 13 号につきましては、本会議において補足説明申し上げたとおりとなります。よろしくお願いたします。

○委員長（宮内 保） 担当課の説明は終わりました。

議案第 13 号について質疑がありましたらお願いします。

高木委員。

○委員（高木 寛） それでは、私のほうから現在構成している市と町、私ちょっと勉強不足で把握していなかったもので、構成している市、それぞれの選ばれている議員といたしますか、その辺の人数、数を教えていただければありがたいですが。

○委員長（宮内 保） 高木委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（加瀬宏之） まず、構成団体ですが、旭市、銚子市、それから東庄町となります。

それで、議員の数ですが、各構成団体から首長、それと議長ということになります。そのうちの首長の中から1名が企業長ということになります。ですから、議員としては5名ということになります。

以上です。

○委員長（宮内 保） ほかに質疑ありませんか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 水道課長にこういう質問して申し訳ないんですけども、この条例の改正の目的を、何で5人から8人にしたのかというところをお聞かせ願えればと思います。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（加瀬宏之） 今申し上げたとおり、各首長、それと議長ということで構成団体から2名ずつ出ております。今現在ですが。これで首長の1名が企業長となりますので、その構成団体のほうが議員1名ということになってしまいます。ですから、この辺を考慮して、もう1名ということだと思います。

また、今回の場合は首長が指名した議員、それと副市長ということになります。これらの方が4年以上継続して審議にかかわっていただけるということで、より一層よいものとなるという方向づけがあったのかと思っております。

以上です。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） もう1回だけ聞いていいですか。

各市の出資状況、パーセンテージ。じゃ、それは後でまた資料を皆さんに渡してやってください。

去年、私1年間これ行かせていただいたんですけども、来年の4月から新しいここに議

員、多分、市長と副市長が同時に行くことはないんだろうと思うんだけど。だから、こちらにいるここから誰か知りませんが、どなたか議員が2人行くんだろうと思うんですよ。

今まで正直言って、これは私の報告として聞いてもらいたいですけれども、今まで議長が充て職で非常に忙しい中、大して議案も見ると余裕もない中で見て、ぱぱぱっと決めて、いや応なしなんです。だから、大して議論もしないで、要するに企業長とそれから総務課、公団の執行サイドとすればやりやすいでしょうけれども、かなり30億円近いお金が10年以上も滞っている。こんなもったいないです。誰も何も言う人がいないということなので、それで議長は忙しい中で一人では大変だろうから、もう一人くらい専属の議員がいたほうがいいんじゃないかと私申し上げたんですよ。

市長はそれ言ってくれたんだろうと思いますけれども、併せて企業長、任期4年と書いてあるんです。これ後で規約を事務局、皆さんに配っておいてくださいよ。企業長、任期4年なんですけれども、ずっと銚子市なんです。総務課長もずっと銚子市。だから、企業長だって、要するに旭に持ってこいということじゃなくて、銚子、旭、東庄と要するに輪番制、これは市長もそういう話に納得していただいたと思うんですけれども、そうなれるように、そうすることが健全だと思うので、そういった意味ではこれは一歩前進。企業長の任期は4年と書いてありますから、これも4年ごとに交代してもらってと思うんですよ。

ですから、これからどなたか議員、もちろん議長は出ていくわけですが、そのほかに副市長、行かないでしょう。多分だからそうするとほかの議員が行くので、その辺のところをできれば活性化、透明化をしてほしいなと思っているんですよ。一歩前進で、私は大賛成です。ご苦労さまです。

ただ、あと資料、規約と出資状況の資料を委員の皆さんに配ってほしい。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（加瀬宏之） 出資状況ということ、負担割合ということで構わないでしょうか。

（発言する人あり）

○水道課長（加瀬宏之） 各構成団体の負担割合。当初、負担割合を定めたときには、銚子が36.3%、当市が48.4%、東庄町が15.3%となっております。

それと、企業長の件ですか。

（発言する人あり）

○水道課長（加瀬宏之） これにつきましては、私のほうではありませんので、議会を通してそのようなご意見を、またこちらからこういう意見があったというのは、企業団のほうには私のほうからご報告しておきます。

以上です。

○委員長（宮内 保） ほかに質疑ありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（宮内 保） 特にないようですので、議案第 13 号の質疑を終わります。

以上で、付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（宮内 保） これより、討論を省略して議案の採決をいたします。

議案第 9 号、平成 30 年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（宮内 保） 全員賛成。

よって、議案第 9 号は原案のとおり可決されました。

議案第 12 号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（宮内 保） 全員賛成。

よって、議案第 12 号は原案のとおり可決されました。

議案第 13 号、東総広域水道企業団規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（宮内 保） 全員賛成。

よって、議案第 13 号は原案のとおり可決されました。

以上で、本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任お願いしたいと思いますが、これにご異

議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(宮内 保) ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長(宮内 保) 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告をしてください。

商工観光課長。

○商工観光課長(小林敦巳) それでは、商工観光課のほうから、恋する灯台の認定についてご報告申し上げます。

商工観光課の資料をお持ちいただけますでしょうか。

こちらにつきましては、市長の政務報告にもありましたが、飯岡灯台が恋する灯台に、また旭市が恋する灯台のまちに認定され、8月14日にこの認定証の授与を受けましたので、報告いたします。

こちらにご用意しました資料は、1ページから3ページまでがプレスリリースした際の資料でございます。

一番最後の4ページ、これが認定証でございます。認定日は6月19日となっておりますが、実際、授与いただいたのは8月14日でございます。

この認定は、日本財団と一般社団法人日本ロマンス協会が灯台をロマンスの聖地と位置づけて地域観光資源とし、再価値化する取り組みでございます。現在、全国で42基の灯台が認定されており、千葉県内では飯岡灯台が初めての認定となります。

この認定を受けまして、今後の取り組みといたしまして、飯岡灯台を恋する灯台とし、市内外にPRしてまいります。具体的には、恋する灯台プロジェクト運営事務局においては、恋する灯台の観光リーフレットの作成、それからウェブサイトでの紹介、それと11月1日の灯台の日を記念したキャンペーンが予定されております。

商工観光課としましては、恋する灯台、恋する灯台のまちを、これから予定されております観光商談会等におきまして、大手の旅行会社に積極的に売り込みを行ってまいりたいと

思います。また、近隣市町を含めた婚活の担当部署等に婚活イベントにぜひこの灯台を利用していただきたいという働きかけを行っていきたくと思います。それから、市内のイベント実行団体に対しましても、この灯台を絡めたイベントの開催等を働きかけてまいりたいと思います。さらに、今年度は間に合いませんでしたが、次年度の夏季観光に向けて、これらを積極的にPRしていきたくと考えております。

商工観光課からは以上でございます。

○委員長（宮内 保） 農水産課長。

○農水産課長（宮内敏之） それでは、農水産課から株式会社千葉県食肉公社の第 23 期事業報告及び第 24 期事業計画について報告をさせていただきます。

資料は右上に農水産課というふうに記入されました食肉公社の書類のほうをご用意いただきたいと思います。

初めに、建設経済常任委員会での報告の経緯につきましてご説明を申し上げます。

株式会社千葉県食肉公社は旭市が出資をしている法人であり、日本政策金融公庫からの借入金に対する損失補償を旭市が行っているため、地方自治法の規定に基づき平成 27 年度までは毎年 9 月の定例議会で経営状況を報告しておりましたが、借入金の返済が進み、旭市が損失補償する額が公社の資本金 7 億 2,000 万円の 2 分の 1 未満となりまして、平成 28 年度より議会への報告義務がなくなりましたが、本委員会において経営状況のご報告を申し上げているところでございます。

それでは、お手元の資料の 1 ページをご覧くださいと思います。

ローマ数字の I の事業報告になります。

平成 29 年度の屠畜数は、大動物の牛が 1 万 4,275 頭で、前年より 17 頭減少し、前年比 99.9%になっております。

なお、近年における全国的な繁殖農家、酪農家の減少により肉用牛の元蓄となる市場に出荷される子牛が減少しているとのことでございます。

小動物の豚は 43 万 1,027 頭で、前年より 7,023 頭増加し、前年比 101.7%でございます。この増加の理由は、1 日当たりの最大屠畜数を増やしたことにより増加したとのことでございます。

枝肉販売実績は、牛が 3,647 頭で、前年より 151 頭増加し、前年比 104.3%です。豚は 19 万 2,151 頭で、前年より 1,883 頭増加し、前年比 101.0%となっております。

次に、II の貸借対照表は説明を省略させていただきます。収支につきまして、III の損益

計算書によりご説明いたします。

2ページをご覧ください。

一番最初の収入となります売上金の合計は114億1,022万2,000円で、これから費用となります売上原価を差し引きますと、中段にありますように、売上総利益金額は3億1,829万7,000円となります。これから販売費と一般管理費を差し引いた営業利益は6,944万円で、一番下にあります税引き後の当期純利益は3,423万2,000円となっております。

続きまして、3ページをお願いいたします。

こちらIVの第24期事業計画になります。

(1)の屠畜数計画ですが、平成30年度計画は牛が1万3,200頭、豚は43万頭になります。前年の計画頭数の記載がありませんが、前年並みの頭数に設定されております。

次に、(2)の販売頭数計画になりますが、こちらは平成30年度の計画は、牛の枝肉が2,540頭、豚の枝肉は19万2,000頭になります。こちらも前年度計画販売頭数の記載はございませんが、ほぼ前年並みの設定となっているところでございます。

それでは、4ページをご覧くださいと思います。

平成30年度の収支計画で、本年度も効率的な経営と一般管理費の削減等に努めることといたしまして、表の一番下にありますように、当期純利益を2,567万7,000円と見込んでいるところでございます。

なお、市が行っている損失補償に係る借入金は当初32億6,600万円でしたが、平成29年度までに32億1,427万円余りの元金を返済し、計画どおり着実に償還されているところでございます。

その結果、平成30年3月31日現在、借入金の元金は5,172万円余りとなっております。借入金の最終返済期日は本年9月20日の返済をもって全て終了する予定でございます。

以上で、株式会社千葉県食肉公社の第23期事業報告書及び第24期事業計画書についての報告を終わります。

○委員長（宮内 保） 担当課の報告は終わりました。

ここで私より委員各位にお願いがあります。

ただいま報告がありました千葉県食肉公社第23期事業報告及び24期事業計画については、担当課長より説明がありましたとおり、議会への報告義務はございません。しかしながら、担当課長から私のほうに所管の委員会ですので、説明させていただきたいとの申し出がありましたので、報告をさせていただきました。質問はなしということでお願いいたします。

それでは、商工観光課の報告について何かお聞きしたいことがありましたらお願いします。
平野委員。

○委員（平野忠作） 商工観光課のほうに何点かお聞きしたいと思います。

それは、今年の夏が例年になく入梅明けが早かった。その代わりに8月に台風がたしか8個ですか、毎週のように襲来したという中で、一番私が今心配しているのは、去年の夏季観光と今年台風があのように異常なああいうときに襲来した中で、入り込み数はどのくらいの差があったのかなと、それがまず1点ですね。

同じく市民プールのほうも夏ですので、前年度、今年度ですね。やはり変わりがあったのか、ないのかということをお聞きします。

それでもう1点、私、今年見に行けなかったんですけども、砂の彫刻ですね、会期の設定が約1週間くらいということで、たしか6月のこの常任委員会の中で、もうちょっと延ばしたほうがいいんじゃないかということで、いろいろ情報を聞きますと、かなりの人手があったというようなことでございます。

この砂の彫刻は、今から6年くらい前ですか、たしかこの旭が東日本大震災に見舞われまして、復興の力になるということで、たしか砂の彫刻が当時ふるさと大賞と。全国で観光イベントのナンバー2の賞を私はいただいた、そういう思いがあるんですよ。ですから、この砂の彫刻はもうちょっと期間の延長といいますか、実行委員会があるわけなんです。それで皆さんがどう考えているか分かりませんが、これから飯岡海岸、旭の夏の観光を売り込むには、やはり前にやったように、もうちょっと期間の延長というのが、これからじわじわと市民の皆さん、あるいは市外からも要望が私は来ると思いますので、その辺も実行委員会と考えながら、これから旭のもっともっとそれを売り込むんだと。

たしか関東地方で砂の彫刻をやっているのは、この旭と、たしか茨城県の日立の河原子海岸ですか、たしか、二、三か所しかないように思われますので、これから旭をPRするのにこの恋する灯台とともに、また新しい旭を見つけてください。その辺について答弁がありましたらよろしくお願いします。

○委員長（宮内 保） 平野委員、所管の事項の報告とは若干それますが、ただいまの質問に対し回答できるようであればお願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長（小林敦巳） それでは、夏の入り込み状況ということでよろしいでしょうか。まず、海水浴場のほうでございまして。矢指、それから飯岡、両方合わせまして2万6,658

人、前年度比でプラス 67 人でございます。

それから、プールが今年は 7,716 人で、前年比プラス 1,072 人でございました。

先ほど委員のほうからお話がありましたが、今年は台風がちょうどイベント日の 2 週にわたりました直撃ということで、イベント自体はなかなか厳しい入り込みでございましたが、この施設の関係につきましても、だいぶ前半はすごく暑くてということで、水といたしますか、海水浴場とプールは、海水浴場は前年並みでございました。波の影響がございます。ただ、プールのほうは去年より 1,000 人ほど多かったと。たしか去年は後半が天気があまりよくなかったというのがあったと思いますが、今年は台風には見舞われましたが、プールのほうはプラスになったということでございます。

それから、砂の彫刻の入り込みでよろしいでしょうか。

砂の彫刻の入り込みは、実行委員会のほうから連絡を受けまして、今年は 5 万 1,120 人、昨年より 3 万 1,120 人増えたということでございます。

確かに 1 週間ほどの期間で、だいぶ短かったんですが、開催場所、今年は飯岡の海岸でありました。飯岡の海岸は非常に海岸道路沿いにあるということで、比較的立ち寄りやすい、今年は無料だということもありました。それで、立地上等の利点もあったと思います。また、実行委員会の皆さんも、会長も替わったということで、PR 活動のほうもだいぶなされたと思いますので、その辺の努力の結果じゃないかなと思います。

それと、次年度に向けてということでございましょうか。せっかくこれだけの人数が集まるイベントでございます。また、実行委員会のほうからお話もあると思いますが、ぜひまた継続して、期間も長くできるようになればよいとは思っております。それはまた実行委員会のほうとお話し合いをしていきたいなと思っております。

以上でございます。

○委員長（宮内 保） 平野委員。

○委員（平野忠作） 今、数字を見ますと、入り込み数で 3 万 1,120 人ですか、大幅なプラスなんですね。ですから、旭でも夏の大きなイベント、たしか Y O U ・遊花火、七夕、決まっています。ですから、もう一つを育てるのには、砂の彫刻が一番だと思うんですよ。そういうわけで、6 年前にはふるさとイベント大賞という国のお墨つきのあれをいただいているわけなんです。ですから、知名度というのは上がっていますから、これをもう一つの夏の核のイベント、さっき課長が言いましたけれども、交通の便がいいんですよ。あそこを通っているだけでも分かるわけなんです。飯岡海岸は少しずつ海岸線が広がってい

るといふか、伸びていますよね。だから、いい条件が生み出される。しかも、恋する灯台が今度はプラスになるということで、飯岡には追い風が吹いているなど、このように私は思っていますが、その追い風を利用しない手はないわけですから、これから課長も実行委員会のほうにも顔を出しますし、そういう追い風が吹いてきたよと、飯岡は。もっと来客も来ますよと。そうしますと、大勢の人が来てくれれば近隣の飲食店ですか、いろんなものを、あれもやはり栄えていくのかなと、このように期待しているわけなんです。

もう1点その中で、いいおか潮騒の宿ですね。これは民間企業の。大家は旭市なんですけれども、情報として入り込み数はそんなにデータを示すつもりがなかったようでしょうか。分かる範囲内で結構ですので、その辺をお知らせください。

○委員長（宮内 保） ただいまの平野委員の、所管事項の報告とは若干またそれですけれども、平野委員の質問に対し回答ができるのであればお願いします。

商工観光課長。

○商工観光課長（小林敦巳） それでは、潮騒ホテルのほうでございましょうか。夏ということで、各いろんなところに今年の状況はどうだったかということを探ねております。

宿泊人数だけ聞いておりますので、この夏、7月、8月合わせまして、宿泊数は2,604名と聞いております。前年比ですと59名。これはやはり夏休み期間は潮騒ホテルも満館になるそうでございます。7月、8月はやはり書き入れどきで、例年人数が多いということ伺っております。

以上でございます。

○委員長（宮内 保） ほかにございせんか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） この恋する灯台プロジェクトという話なんですけれども、たしか今年には私も全然知らなかったんですが、YOU・遊フェスティバルより一、二週間早く灯台でステージを組んで何かやっていたんですよね。終わってから、市民からもっと予算をつけてやってくれないかという話をもらって、ただそのとき知らなかったんですけれども、これは市は、商工観光課は何か関係していたんですか。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員の質問に対し答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（小林敦巳） それはフラダンスのイベントじゃないでしょうか。

この恋する灯台の認定につきましては、特に旭市が手を挙げたということはありません。

これは、この審査をしている委員の中に千葉テレビの方がいらっしゃいまして、千葉テレビの関係の方、旭市のほうのイベント関係でお世話になっている方でございます。この方がたまたまこの恋する灯台の審査の委員だったということで、前年の花火の映画関係とかで灯台が有名になったということで、千葉テレビの方が一押ししてくれたといえますか、その辺の働きかけもあったということは聞いております。

実はその方から受かったということを知ったところでございますので、特に旭市のほうが手を挙げたということではございません。今後PRしていきたいと思っております。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） そういう意味で私ども知らなくて、地元の方のほうから先に話をもらったので、今、平野委員もおっしゃいましたけれども、追い風が吹いているわけなので、そういった意味でこれをどんどん利用して、どんどん観光客を招き入れる。先ほどお話ありましたけれども、来年度はということでお話ありましたけれども、ある程度予算の裏づけを持ってやっていただけるということによろしいですかね。

○委員長（宮内 保） 佐久間委員の質問に対し答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（小林敦巳） 今年は予算が、急にこれ選ばれたということで、予算は計上しておりませんが、できる限りのPR、もう既にPR関係は実施しております。来年度に向けましては、また今後検討しまして、せっかく選ばれましたので、予算等も検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（宮内 保） ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（宮内 保） 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

○委員長（宮内 保） 以上をもちまして、本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会建設経済常任委員会委員長 宮 内 保